

令和5年度 特別国体関東ブロック大会 水球競技【戦評】

会場：埼玉県大宮公園水泳場

【2023/8/4】

代表権

東京都 14

4	—	1
4	—	2
2	—	1
4	—	0

4 千葉県

PSO

審判： 新井 睦士
齊藤 誠

この試合のプレー集計

東京都	33	SH数	24	千葉県
	14	速攻数	13	
	15	ST・SB	8	
	11	SH・P誘発アシスト	3	
	60%	GK阻止率	44%	
	10	EX反則数	13	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

今大会のレギュレーションにより、東京が勝てば、この試合前のカード、「群馬県—神奈川県」の両者と東京の3チームが本線出場権を得ることになるが、千葉が勝利すると、「栃木県—埼玉県」の勝者にもチャンスが回ってくるという重要な一戦。それだけ多くの関係者が注目するカードとなった。

1P

東京のシュートが外れ、千葉のセンター③染谷にタイミングよく⑩中山からのボールが入り、千葉が先制。今大会の東京はこうした試合開始時の対応がやや鈍く、序盤の集中力アップがこれからの全国大会での課題となるであろう。その後は、東京も落ち着きを取り戻し、しっかり守ってからの速攻や展開力で千葉を翻弄し、エース⑦渡邊を中心にペナルティファウル2本、退水を3本も誘発する展開で圧倒。東京4—1千葉と東京優位で第1ピリオド終了。そうした攻撃力を見せつけた反面、やや雑なディフェンスプレーが目立ち、外周で2本、インサイドでペナルティファウルを含む2本ものファウルを喫するなど、千葉のややチグハグな攻撃に助けられた形になった。

2P

東京がスタート時の退水を⑥森川が決めて東京5—1千葉と安全圏に持ち込んだ。このあたりからゲームも落ち着きを取り戻し、無駄な退水も減少。双方の持ち味で試合が展開されていった。劣勢の千葉は得点力のある③染谷にボールを集め、5本のシュートを放った。そのうち、退水場面と6mシュートが決まり、このピリオドの千葉は2点を返した。しかし、総合力に勝る東京はそれ以上に決定力の違いを見せ、⑩武田⑧和田⑦渡邊が多彩なシュートを決めて点差を広げ、東京8—3千葉で前半を折り返した。

3P

千葉の攻撃で始まり、ゴール前を東京が固めている状態にもかかわらず安易なパスを出して、東京側にボールを奪われ、それを見透かしたエース⑦渡邊が飛び出して、1抜けのシュートをゴールに叩き込んで6点差。こうした相手に十分に固められている状態での、やや苦し紛れのパスプレーは負けているチームは絶対に慎まなければならない。外周をやや速いパスで回して、ディフェンスの遅れを誘い出してから、センターやドライブ攻撃で崩して追い上げる。相手側に「やってくるぞ」という警戒感を引き出させ、攻撃への意識よりも後手を踏まないディフェンスに傾斜させ、じわじわと圧力をかけて点差を詰めていくことが後半勝負の鉄則だ。このあたりが千葉と上位都県との差。そうしたことをピリオド最初の得点シーンで見せつけられた形だ。東京優位は崩れそうもなく、このピリオドも点差を広げ、東京10—4千葉で第3ピリオド終了。

4P

千葉は3ピリオドで集中力が切れた形で、両手で相手選手を沈めたり、フリースローで距離を取らなかつたりが相次ぎ、退水の連続(このピリオドで5本)。点差も開いた状態だったため、東京側も何が何でも点をあげなければという雰囲気はなく、4点にとどまったが、千葉はチームとしての攻撃になっただけで、オフェンス反則もこのピリオド6本という悪循環。そのリズムではペナルティシュートも決めることができず、最終的には東京14—4千葉で、東京が代表権を獲得した。点差以上に、千葉の出来が悪く、混成チームの悪い面が露呈してしまった形だ。ベンチとの連携も不十分さは否めず、やや後味の悪い最終戦となってしまった。

この結果、Aブロック、Bブロックのバランスが取れた出場権獲得となったため、「神奈川県」「群馬県」「東京都」の3チームが本選国体に出場することが決定した。